

議事録(要点筆記)

会議名	令和5年度第2回芦屋町文化財保護委員会				
開催場所	芦屋町歴史民俗資料館				
開催日時	令和5年11月7日(火) 午前10時30分～11時25分				
議 事	(1) 芦屋町指定文化財の新規指定について (2) その他				
委員の出欠	会長	石川 匡宏	出	野村 宗稔	欠
	副会長	中西 一美	出	久野 隆志	欠
		中村 修身	出	徳山 忍	出
事務局	新郷、入江、山田、其田(芦屋釜・歴史文化課)				
合意・決定事項	<p>・芦屋町指定文化財の新規指定について、有形文化財2件の概要及び指定の理由を事務局から説明し、委員による調査を行った。</p> <p>次回の芦屋町文化財保護委員会を令和5年度末に開催し、芦屋町指定文化財の新規指定に向けた継続審議を行う。</p>				

## 令和5年度第2回芦屋町文化財保護委員会議事録

### 1 開 会

芦屋釜・歴史文化課長より挨拶が行われた。

### 2 議 題

#### (1) 芦屋町指定文化財の新規指定について

##### 【事務局による説明】

芦屋町指定文化財の新規指定について、資料1のとおり説明を行った。

##### 【質疑・意見等】

〈委員〉

金屋遺跡出土品2点のうち、芦屋釜鋳型については、芦屋釜に多く見られる霰の文様や真形釜特有の羽を確認することができる。

こしき炉基底部は、容易に運搬することが難しいことから、こしき炉基底部の芦屋町での出土は、芦屋町で芦屋鋳物師が活動していた証明になる。金屋遺跡出土品2点ともに、芦屋町指定文化財に指定する価値、魅力が十分にあると思う。

〈委員〉

素文平釜について、釜の持つ光沢・形ともに美しい。また、芦屋鋳物師の技法（中子造型）が用いられていることは非常に価値がある。素文平釜も芦屋町指定文化財に指定するだけの価値が十分あると思う。

〈委員〉

芦屋鋳物師が素文平釜を製作した理由は、生計を立てるためか。茶の湯釜製作だけでは、生活できない経済事情等があったのか。

〈事務局〉

鋳物の産地では、煮炊用の鍋、釜、鋤先などの生活用具の鋳型が出土する事例が多いが、芦屋町では、このような鋳型は発見されていない。このことから、芦屋町では、茶の湯釜や仏具等、特定のもので製作されていたと考える方が妥当と思われる。この素文平釜の出土から、一般の釜も作っていたことが判明するが、寺社等で使われるようなものであったのかもしれない。

#### (2) その他

〈事務局〉

前回の文化財保護委員会で依頼があった芦屋町指定文化財の新規指定に向けた候補リスト

を参考資料として配付した。検討をする際の資料として活用いただきたい。

〈委員〉

候補リストのうち、向井文庫「古地図」について、すべての古地図を確認したわけではないが、すばらしい。古地図の他にも魅力的な文化財はあると思うが、芦屋町指定文化財の新規指定を検討する際は、芦屋町の歴史を広く知ってもらう視点、町外の方が文化財を見に来たいと思うような文化財を指定する視点、この2点を大切にしてほしい。

〈委員〉

国選択無形民俗文化財である八朔行事について、わら馬を作れる人や作り方を教えられる人が減っている。観光協会等の支援もあり、年間を通して、わら馬を作る活動をしているが、新たにわら馬づくりに参加しようとする若い人は現れていない。八朔行事は、芦屋町の魅力的な文化財であるため、存続に向けた助言を含めた支援を検討いただきたい。